

すべてをゆだねて生かされて

マルコ福音書1:21~28 / 笠原光見

ときどき、「神の定めたことに従って生きるなんて嫌だな。めんどくさい気がするし、神が定めたことなんて関係ねえし」という言葉を聞くことがあります。

そのように言う人、思っている人に知ってほしいです。神さまが定めたことってというのは、人間を守るため、祝福するため、救うために定めたこと、決めたこと、約束したことなんだよって言うことを。

聖書は言います。「万物はこの神から出、私たちはこの神に帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在しているのです（1コリント8：6）」。

宇宙万物すべてのものは、神さまの思いがあって、計画があって、目的があって創られたんだ、と聖書は言います。そして私たち人間は、神が定め、決めたことに守られ、支えられ、生かされているんです。

地球と太陽と月の位置もそう。地球と太陽の距離が今より離れても、近くても人間が生きていくことはできない。月と地球の距離も最適な距離だから引力で潮の満ち引きがあって地球の命の営みは保たれているし、地球の地軸の角度が23，4度で自転しているから世界の温度は丁度良く保たれている。もしも地軸が90度くらいとかであったら寒すぎる冬と、暑すぎる夏が半年ごとに繰り返されて生き物が住めるような環境ではなかったでしょう。

空気中の酸素量も21～22パーセントで、78パーセントは窒素だと決まっているといます。酸素が少なすぎれば酸欠で大変ですし、酸素は多すぎても人間の体には害となり、めまいや、けいれんなどを起こすことが出てくるそうです。空気中の酸素量もいのちあるものが生きやすいように丁度よく定められているんです。

すべてを上げればきりがありませんが、神さまが、まさに神業をもって創り、定め、決められたことに私たちは守られ、支えられて生きている。否。生かされているんです。神の定めから外れて生きることのできるものはいないでしょう。

そして、神は、私たちのいのちの日々を祝福し、安心して、平安の内に過ごすことができるように、聖書のみことばを通して、主イエス・キリストを通して、教え、育て、導こうとしてくださっています。何によって教えられ、育てられるか、ということは、人の人生にとって大切なことだと思います。朱に交われれば赤くなるということわざがありますが、いのちの源である神さまとの交わり、つながり、関わりは、私たちの人生にとって利することしかないでしょう。

そして、自分には寄って立つものがあるということ。信じて、軸となるもの、柱となるもの、土台となるものがあるということは、この複雑で、不安定で、不確実な世界を生きていくには重要なことだと思います。

神さまは、イエス・キリストをお通して神の国のルールを伝えました。どこの国でもルール、決まりというものがあるでしょう。神の国のルールそれは、「神を愛し、自分を愛するように隣人を愛する」ということです。

これまで、律法学者やファリサイ派と言われる指導者たちは「隣人を愛し、敵を憎め（マタイ5：43）」と律法に書かれている文言を解釈した言葉で人々に教えを説くことをしてきたし、そうすることしかできなかったのでしょう。

しかし、イエスさまは「わたしは言うておく（マタイ5：44）」といわれ、どこかの文言の受け売りでも、誰かの言葉の二番煎じでもなく、ご自身の言葉で、「敵を愛し、迫害するもののために祈りなさい（マタイ5：44）」と力強く宣言したのです。これを聞いた人々は非常に驚いた、といます。

時々、「互いに愛し合いなさい」とイエスさまが仰った言葉を、「きれい事を言うな」と言う人

がいますが、汚れきった服や、食器はキレイにしたいと思うじゃないですか。

先日、テレビの番組で、政治の裏金問題のことで元政治家の人がこんなことを言っていました「(政治は)きれいな事ではできないですよ」。僕は、これを聞いて、とても残念に思いました。元ですが政治家がそんなことを言っちゃいけない。

人は汚れきったものの中に身を置き続け、慣れてしまうと、痛みも悲しみも感じなくなってしまうんじゃないでしょうか。

たとえば、真っ白なワイシャツに小さなシミができたら悲しいとか、痛みを感じるかも知れないですが、白かったワイシャツが汚れで酷くなっていたら、少しのシミがついたとしても痛みや、悲しみを感じなくなるようなものでしょう。

汚い政治が行われる先にあるのは、汚れた社会、汚れた、乱れた国の姿じゃないんですか。キレイな政治の実現のために声を上げ続ける人が必要でしょう。

この世界の創造主であり、オーナーであり、主権者である神は、ご自身の創られたこのかけがえない世界が、そして私たち一人一人が汚れていくこと、乱れていくことを誰よりも痛み、悲しみ、辛い思いをされている。

神は、どうにかして守りたい、導きたい、救いたい一心で、御子イエス・キリストをこの世界に、私たちのもとに遣わしてくださったのです。イエス・キリストは「きれいな事を言う」。汚れた政治、汚れた宗教、汚れた世界、汚れた人の思いをキレイにするために。癒やすために。祝福するために。

イエスさまが汚れた霊を追い出すとき、汚れた霊はイエスさまのことをこう言いました「神の聖者だ」と。

神の聖者であるイエス・キリストがこの世界にこられたのは、私たち人間にはどうすることもできない罪という汚れのすべてをその身に背負い、十字架にかかり死なれることで、私たちの罪をゆるし、永遠の滅びから救いを得させるためだ、と聖書は言います。

聖なる神は、「少しなら不正もいいよ。ちょっとくらい汚れててもいいよ。小さい罪ならなんでもいいよ」というような、いい加減な方ではありません。

神は、私たち人間の罪を徹底的に取り除くために、何一つ罪のない聖なる方である御子イエス・キリストのいのちを差し出し、十字架に掛けることで、私たちの罪のゆるしと、滅びからの救いを成し遂げることを決めてくださったのです。私たちのいのちの救いのために。

昨年、妻のステージ3の胃がんが見つかり、主治医からはガン切除手術の話がありました。ただ、悪性のガンを切除すればそれでお終いではなく、今の医療技術では限界のある目には見えないところにあるかもしれない悪性のガンを徹底的に叩くために、抗がん剤治療も勧められました。そして、妻は主治医が勧めた、ガンを徹底的に叩く、苦しい抗がん剤治療を受ける選択をしました。いのちのために。

この宇宙万物すべてのものを御手に治められる神さまが定め、決められたことというのは、私たち人間のいのちを守るため、祝福するため、救うために定めたこと、決めたこと、約束したことです。

神は、御子イエス・キリストに私たちのすべての罪を背負わせ、十字架に付けることで、私たちのすべての罪のゆるしと、滅びからの救いをなし遂げることを決められました。そして神は、イエス・キリストを十字架の死から復活されることによって、イエス・キリストを信じるすべての者に永遠のいのちを与えてくださると決めたのです。

私たちは、神が私たちのいのちを守るため、祝福するため、救うために、定めたこと、決めたこと、約束したことを信じて、受け止め、与えられたいのちの時を大切に、誠実に、感謝をもって、賛美をもって生きていくもの、生かされていくものでありたい。

そして、これからも主イエス・キリストとの交わり、関わり、つながりを大切に、みことばに耳を傾け続け、たとえ「きれいな事だと」いわれても、神の思いと、言葉と、愛を大胆に発信し続け、互いに愛し合うことを伝え続け、語り続ける教会でありたい。私たち一人一人でありたい。